

第3・4学年 道徳学習指導案

日 時：平成29年9月29日（金）5校時
児 童：第3学年・第4学年
指導者：

- 1 主題名 温かく気づかう心 【B-(6)親切、思いやり】
- 2 資料名 心と心のあく手 (学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

中学年の内容項目B「主として他の人との関わりに関すること」の(6)に「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」とある。これは、単に相手にやさしく接するだけではなく、相手の状況や困っていることを想像して、相手の立場を理解し、自分のことに置き換えて、進んで親切にしようとする考えをもって実践していく態度を育てる内容項目である。

この内容項目は、低学年の内容項目B(6)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を受けたものであり、高学年の内容項目B(7)「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」、中学校の内容項目B(6)「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」に発展していくものである。

中学年では、相手の気持ちや状況を判断し、どのように接することが相手のためになるのか、自分のこととして考えて行動することが求められてくる。また、自分の思いだけの自己満足に終わるのではなく、どうすることが相手のためになるのかを考え、よりよい人間関係を築いていくことが重要になる。

この時期の児童は、自発的にやさしく手をさしのべ、親切な行動をとることができている。しかし、相手の状況が理解できず、自分の考えを優先してしまい、その思いを深く汲みとれないことがある。それらの心の弱さや未熟さがあながらも相手の状況を考えて相手を思いやることの大切さを十分に自覚して理解することが必要である。

以上のことから、相手の立場や状況を理解するために相手の身になって考えることは、豊かな心を育む上からも大変意義深いことであると考えられる。

(2) 児童について

3年生の児童は、素直でまじめである。複式3年目となる4年生の児童は、今年度は上位学年となり、3年生をリードしようと積極的に発言しながら学級を守り立てている。3年生も4年生も、仕事を頼まれると気持ちよく引き受けられることができる子が多く、困っている友達がいると相手の表情を見ながらやさしく声をかけたり、励ましてくれたりする子もいる。

しかし、困っている人が自分とあまり親しくない関係であったり、自分にとって都合のよくない状況であったりすると助けてあげることができずにいる。これは困っている人の状況や気持ちを理解することができなかつたり、自己中心的な考えから抜け出せなかつたりするためだと考える。また、困っている人や弱い立場にある人の辛さや悩みなどを感じ取っていても自分のことではないから見て見ぬふりをしてしまうこともある。

これらの実態から、困っている人や弱い立場の人に親切にしなければならないことはわかっているが、実際に相手の状況が理解できず、自己中心的な考えや自分の都合だけが優先されてしまう傾向にある。表面的な親切だけではなく、相手の状況や気持ちを理解して、黙って温かく見守るといった目に見えない親切もあることに気付かせたい。この学習を通して、相手の思いを受け止め、どうすることが、本当の意味での親切、思いやりなのか、道徳的判断力を養う機会にしたいと考える。

(3) 資料について

資料「心と心のあく手」の内容は次のとおりである。

学校の帰り道、重そうな荷物を持って一生懸命歩いているおばあさんと出会い、迷いながらも手をかそうと声をかけた主人公のあきらだったが、おばあさんに断られてしまい残念に思いながら家に帰る。すると母親から「おばあさんは病気で体が不自由になり、歩く練習をしてあそこまで治った。」と聞き、はっとする。数日後、再度おばあさんと出会ったとき、どうすることがおばあさんのためになるのかを考え、あきらは黙っておばあさんを見守り続ける。あきらに気付いたおばあさんからお礼を言われて主人公の心がすっきりと明るくなる話である。

本資料の活用にあたっては、お年寄りを気遣う主人公の思いや行動に共感しながら、おばあさんに対する主人公の気持ちの変化をおさえることで本当の意味の親切、思いやりについてより深く考えさせたいと考える。相手の状況をよく考えることが心からの親切、思いやりにつながることに気付かせ、ねらいとする価値に迫っていきたい。

(4) 他の教育活動などとの関連

3・4年生の発達段階を考えると、ある程度、相手の気持ちを自分に置き換えて考え生活する様子が見える。2学期も学校行事や地域学習を通して、温かな心を育み、相手にとっての喜びは自分の喜びにもつながっていく経験を積み重ねていきたい。

道徳においては、5月に資料名「わたしとさおりちゃん」から互いのよさを理解し、認め合い、助け合おうとする心情を育ててきた。また、9月は総合的な学習の時間に「グループホームさわか」を訪問し、高齢者の方々とふれあいを通して、相手の表情や動きをよく見ながら、自分たちにできることを考えながら交流した。実際に施設を訪問することでお年寄りの方々と一緒に活動を行い、相手の状況を理解しようと積極的に関わる態度を養う貴重な体験の場であった。

4 資料分析図

主要場面	心の動き	気付かせたいこと	主な発問
<p>学校の帰り道、重そうな荷物を持って歩くおばあさんと出会う。ぼくは心配して「荷物、持ちます。」と声をかけたが、おばあさんに断られてしまう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手伝おうと思ったのに。残念。 ・どうして断るのかな。 ・おばあさん、本当に大丈夫かな。心配だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんとの約束があるにもかかわらず、おばあさんに声をかけるぼくのやさしさと勇気ある行動について。 ・おばあさんは重い荷物を持って苦しそうにしているのを心配するべく。 	<p>○「荷物、持ちます。」と声をかけて断られたときのあきらくんは、どんな気持ちだったでしょう。</p>
<p>家に帰って母親からおばあさんの話を聞いてぼくはずっとおばあさんのことを考えていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くのをがんばっていたんだ。 ・声をかけて本当によかったのかな。 ・歩く練習をしていたのか。 ・どうすることがおばあさんのためになるのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の親切がおばあさんのためになっているのか振り返っているべく。 ・おばあさんの断った理由。 ・おばあさんのためになることを考え続けたべく。 	<p>◎お母さんの話を聞いて「はっと」したあきらくんは、どんなことに気付いたのでしょうか。</p>
<p>数日後、また、おばあさんと出会う、そっとおばあさんの後ろを歩いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・転ばないようにね。後ろから見ているよ。がんばって。応援しているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけずに見守るぼくの温かさやさしさ。 	<p>○あきらくんは、どんな気持ちでおばあさんの後ろをそっと歩いて行ったのでしょうか。</p>
<p>おばあさんはくりりとふり向いてお辞儀をして「ありがとう。」と笑顔を見せた。ぼくの心は明るくなった。ぼくは「心と心のあく手」をしたような気がした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことをわかってたんだ。おばあさんと気持ちが通じてうれしい。 ・心配していた気持ちがおばあさんに通じた。 ・声をかけてないのにぼくの思いが伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの思いをわかってくれたおばあさん。 ・おばあさんのお辞儀はぼくへの感謝。 ・おばあさんを見守ることも親切、思いやりである。ぼくの思いがおばあさんに伝わり、「心と心のあく手」につながった。 	<p>○「ありがとう。やさしい子だねえ。」と言われたときのあきらくんは、どんな気持ちでしょう。</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

体の不自由なおばあさんに対してあきらの言動に共感させることを通して、相手の状況を想像し、その思いを理解しようとする気持ちが相手に対する思いやりであることに気付かせ、相手のことを考えて進んで親切にする態度を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問 (○)	期待する児童の反応 (・)	指導上の留意点 (*)
気 づ く 3 分	<p>1 親切や思いやりについて考える。</p> <p>○親切な人とは、どういう人のことでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで手伝う人。 ・優しい人。 ・お年寄りに席を譲る人。荷物を持ってあげる人。 ・わからないことを教えてくれる人。 ・自分のことではないのにやってくれる人。 	<p>*親切について意識を高めるためにこれまでの経験から自分の考える親切な人を思い起こさせ、道徳的価値について学習の方向付けを図る。</p>
深 め る 26 分	<p>2 資料「心と心のあく手」を読んで、ぼくの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○「荷物、持ちます。」と声をかけて断られたときのあきらくんは、どんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手伝おうと思ったのにな。残念。 ・どうして断るのかな。 ・おばあさん、本当に大丈夫かな。心配だな。 	<p>*ぼくの気持ちに注意しながら範読する。また、ぼくの状態を確認しながら、挿絵を提示する。</p> <p>*お母さんとの約束があるにもかかわらず、声をかけるぼくのやさしさと勇気ある行動をおさえる。</p>
	<p>◎お母さんの話を聞いて「はっと」したあきらくんは、どんなことに気付いたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くのをがんばっていたんだ。 ・歩く練習していたのか。 ・初めに声をかけたことはよかったのかな。どうすることがおばあさんのためになるのだろう。 	<p>*自分のした親切がおばあさんのためになることか、振り返っているぼくの気持ちに気付かせる。</p> <p>*おばあさんが初めに断った理由を考え、相手のためになることは何かを考え続けていたぼくの気持ちに気付かせたい。</p>
	<p>○あきらくんは、どんな気持ちでおばあさんの後ろをそつと歩いて行ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさん転ばないようにね。ぼくは後ろから見ているよ。 ・がんばって。自分で歩けるようになってね。 ・声はかけないけど、家までがんばれ。応援しているよ。 	<p>*声をかけずに見守るぼくの温かさやおばあさんの気持ちを考えた行動からぼくのやさしさをおさえる。</p>
	<p>○「ありがとう。やさしい子だねえ。」と言われたときのあきらくんは、どんな気持ちでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことをわかっていた。ありがとう。 ・応援していたのを知っていたんだ。 ・心配していた気持ちがおばあさんに通じた。うれしいな。 ・声をかけなかったけど、伝わったんだ。 	<p>*ぼくの思いやりの心に気付き、おばあさんもわかってくれたという気持ちが、心のあく手に繋がっていることに気付かせたい。</p>

<p>つかむ</p> <p>4分</p>	<p>3 価値について話し合う。</p> <p>○あきらくんの行動から本当の親切とは何かを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる心。 ・困っているのをわかろうとする心。 ・相手を助けたいと思う心。 ・どうすれば、相手のためになるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに声をかけたが、その後は黙って見守ったあきらからの行動から気持ちの変化をとらえ、価値をつかむようにする。 ・児童の発言から価値に結び付け、課題に対する答えを見い出せるようにする。
<p>広げる</p> <p>8分</p>	<p>4 自分自身の生活を振り返る。</p> <p>○これまでの親切や思いやりを振り返り、今日学んだことを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは、見たい本があるとすぐにとってしまったけど、見たい人もいるのでゆずるようにしたい。 ・皆で使うペンだから、次に使う人のことを考えて使うようにしたい。 ・「さわこ」での体験をこれからの学校生活に活かして困っている人を助けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの親切、思いやりについて振り返り、今日学んだことを自分の言葉で伝えられるようにシートに書いて発表させる。 ・教師からも子どもたちの思いやり、やさしさに触れ、子どもたちと交流の場をつくる。
<p>まとめる</p> <p>4分</p>	<p>5 今日の学習を振り返る。</p> <p>○「グループホームさわこ」の職員の方がお年寄りをお世話するときに気をつけていることについて紹介する。</p>	<p>職員の方の様子を写真等で紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の方のお世話をする様子を知り、自分たちが体験してきたことを振り返るようにしたい。 ・相手の表情や動きをよく見て、思いを受け止めていく心に触れ、意欲付けを図る。

(3) 板書計画

